



映画『不気味なものの肌に触れる』より

2015年6月27日(土) 13:00~17:00
立教大学新座キャンパス6号館3階ロフト2

第一部 『不気味なものの肌に触れる』上映
(濱口竜介監督作品、2013年、54分)

第二部 短編映像作品上映・ディスカッション

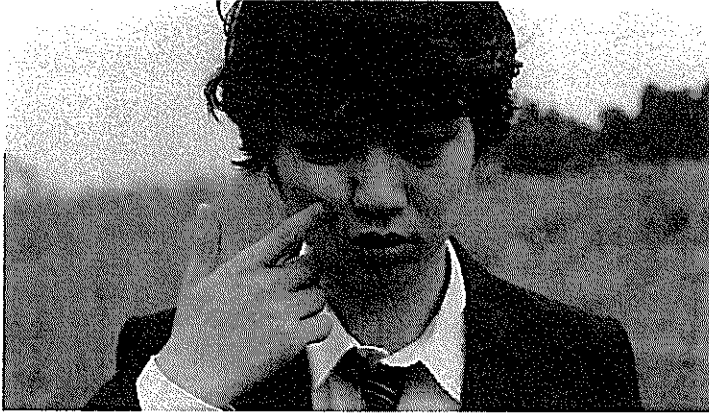
濱口竜介×砂連尾理×松田正隆
(映画監督) (振付家・ダンサー) (本学教授)

入場無料

『不気味なものの肌に触れる』 作品紹介

-お前の背骨、変だぞ

-なんか進化から取り残されてるみたいだ



出演：染谷将太、渋川清彦、石田法嗣、
瀬戸夏実、村上淳、河井青葉、水越朝弓
ほか

監督：濱口竜介

脚本：高橋知由 撮影：佐々木靖之

録音：黄永昌 音楽：長瀧寛幸

助監督：野原位 制作：城内政芳

メイク：橋本申二

スタイリスト：小磯和代

振付：砂連尾理

あらすじ：千尋(染谷将太)は父を亡くして、腹違いの兄・斗吾(渋川清彦)が彼を引き取る。

斗吾と彼の恋人・里美(瀬戸夏実)は千尋を暖かく迎えるが、千尋の孤独は消せない。

千尋が夢中になるのは、同い年の直也(石田法嗣)とのダンスだ。

しかし、無心に踊る彼らの街ではやがて不穏なできごとが起こりはじめる……。

濱口竜介 (はまぐち りゅうすけ)

1978年神奈川県生まれ。東京大学文学部卒業後、商業映画の助監督やテレビの経済番組のADを経て、東京藝術大学大学院映像研究科に入学。2008年、修了制作『PASSION』がサン・セバスチャン国際映画祭や東京フィルメックスに出品され高い評価を得る。その後も日韓共同製作『THE DEPTHS』(2010)がフィルメックスに出品、東日本大震災の被災者へのインタビューから成る『なみのおと』『なみのこえ』、東北地方の民話の記録『うたうひと』(2011~2013/共同監督:酒井耕)、4時間を越える長編『親密さ』(2012)、染谷将太を主演に迎えた『不気味なものの肌に触れる』を監督するなど、地域やジャンルをまたいだ精力的な制作活動を続けている。現在は活動拠点を神戸に移して活動中。合同会社「フィクティヴ」代表取締役。

砂連尾理 (じゃれお おさむ)

振付家・ダンサー。立命館大学、神戸女学院大学、天理医療大学非常勤講師。1991年寺田みさことダンスユニットを結成。1993年~1994年NYにダンス留学。2002年「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2002」にて「次代を担う振付家賞(グランプリ)」「オーディエンス賞」をW受賞。受賞作「あしたはきっと晴れるでしょ」はジャカルタ、パリ、プラハ、ソウル、ニューヨーク、メルボルンなど、他の作品も含めてこれまでに海外10ヶ国12都市で公演を行う。2004年、京都市芸術文化特別奨励者。2008年、文化庁・新進芸術家海外留学制度の研修員として1年間ベルリンに滞在。近年はソコ活動を中心に、ドイツの障がい者劇団ティクバとの「Thikwa+Junkan Project」、舞鶴の高齢者との「とつとつダンス」、音楽家・野村誠との「家から生まれたダンス」、映像作家・細谷修平との共同制作による名取市関上の避難所生活者の声を集めたドキュメンタリー「閲上録」、濱口竜介監督映画「不気味なものの肌に触れる」への振付・出演など、多方面に精力的な活動を展開している。

主催：心理芸術人文学研究所 共催：現代心理学部

なお、この研究成果報告会は「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」における「映像生態学的研究」プロジェクトの一環として行うものである。

映画は変身する!

映画は変身する!

The Metamorphosis of CINEMA

立教大学現代心理学部附属 心理芸術人文学研究所
映像生態学プロジェクト 映画上映と公開シンポジウム

2015.6.7(日) / 6.13(土) 立教大学新座キャンパス 6号館 2階ロフト1

映像 *Image*
×
時間 *Time*
×
空間 *Space*
×
身体 *Body*
×
演技 *Acting*
×
記憶 *Memory*



João Pedro Rodrigues × João Rui Guerra da Mata × Takefumi Tsutsui × Daisuke Akasaka × Shinya Tsukamoto × Makoto Shinozaki



Part 1

6月7日(日)
立教大学新座キャンパス6号館2階ロフト1

13:00 ~	『自由なファンシイ』(115分) 監督：筒井武文
	休憩
15:15 ~	『SHARING』立教ヴァージョン(99分) 監督：篠崎誠
	準備休憩
17:30 ~	公開シンポジウム(19:30終了予定) 登壇者：ジョアン・ペドロ・ロドリゲス、ジョアン・ルイ・ゲラ・ダマータ、赤坂大輔、筒井武文、篠崎誠、日置圭一(ポルトガル語通訳)

ジョアン・ペドロ・ロドリゲス(映画監督)

長編第1作『ファンタズマ』(2000)がヴェネチア国際映画祭コンペティション部門で上映される。新人監督として異例なことであり、その衝撃的な内容も合わせ大きな話題となる。続く第2作『オデット』(2005)で、カンヌ映画祭に参加。第3作『男として死ぬ』(2009)も各国の映画祭で上映され、2009年度のフランス「カイエ・デュ・シネマ」誌の年間ベストテンにランクイン。米国、日本等で全作品の回顧上映が開催され、2012年カンヌ映画祭批評家週間短編部門で審査委員長をつとめる。2000年代最も注目すべき映画監督の一人。

ジョアン・ルイ・ゲラ・ダマータ(映画監督・美術)

ジョアン・ペドロ・ロドリゲスの初監督作である短編『ハッピー・バースデー』で主演を務めて以来、長年に渡る盟友であり、ジョアン・ペドロのこれまでの全作品の美術を担当してきた。ジョアン・ペドロ・ロドリゲスを主演に迎え、ジャン・コクトーの「人間の声」をモチーフに短編『火は上がり、火は鎮まる』を監督。長編映画『追憶のマカオ』(2011)では、ジョアン・ペドロ・ロドリゲスと共同監督、脚本も担当する。

筒井武文(映画監督・東京藝術大学大学院映像研究科教授)

東京造形大学に在学中から映画製作を開始。劇映画のみならず、ドキュメンタリーなど、多岐にわたる映像作品を手掛ける。主な作品として『レディメイド』(1982)『ゆめこの大冒険』(1986)『オーバードライブ』(2004)『孤独な惑星』(2010)『ハッハの肖像』(2010)など。劇映画としての最新作が今回上映される『自由なファンシイ』(2015)であるが、同時に、現在、映画作家・松本俊夫を追った長大なドキュメンタリー作品『映像の発見=松本俊夫の時代』(全5部作)を製作中。

★なお、スケジュールは当日の進行により、若干変更となる場合がございます。

主催：立教大学 現代心理学部付属 心理芸術人文学研究所

共催：立教大学 現代心理学部

協力：ポルトガル大使館

★アクセス

■東武東上線、副都心線志木駅下車 徒歩約25分

路線バス(西武バス) 約10分 志木駅南口2番バス乗り場より「清

Part 2

6月13日(土)
立教大学新座キャンパス6号館2階ロフト1

14:00 ~	『子供の時間』『幻影のニッポン』(各15分) 監督：篠崎誠
14:30 ~	『IEC LONG』(31分) 監督：ジョアン・ペドロ・ロドリゲス & ジョアン・ルイ・ゲラ・ダマータ
	休憩
15:05 ~	『ヴィタール』(85分) 監督：塚本晋也
16:30 ~	公開シンポジウム(18:30終了予定) 登壇者：ジョアン・ペドロ・ロドリゲス、ジョアン・ルイ・ゲラ・ダマータ、塚本晋也、篠崎誠、日置圭一(ポルトガル語通訳)

赤坂大輔(映画批評家・立教大学兼任講師)

立教大学卒業後、イタリア留学。1994年ポルトガルに渡り、現地での映画状況取材したのをきっかけにキネマ旬報などで批評活動を開始。1997年、1999年にアテネ・フランス文化センターで「ポルトガル映画講座」をプロデュース、当時まだ日本で知られていなかったペドロ・コスタやマヌエル・ド・オリヴェイラを紹介。2004年国立近代美術館で開催された「ブラジル ボディ・ノスタルジア」で講演を行う。以後、現在にいたるまでイギリス、イタリア、スペインなどの映画雑誌に寄稿。

塚本晋也(映画監督)

8ミリの自主製作映画『電柱小僧の冒険』(1987)が、1988年度びあフィルム・フェスティバルでグランプリを受賞。翌89年に発表した『鉄男』がローマ国際ファンタスティック映画祭グランプリを受賞したのを皮切りに、一気に世界中の注目を浴びる。以後、国内外を問わず数々の映画賞を受賞。ヴェネチア国際映画祭で二度審査員を務める。『六月の蛇』がヴェネチア国際映画祭コントロレンテ部門の審査員特別賞を、『KOTOKO』は同映画祭オリゾンティ部門グランプリを獲得。70周年を迎えたヴェネチア国際映画祭の求めに応じて日本人として唯一短編映画を作った。

篠崎誠(映画監督・立教大学現代心理学部映像身体学科教授)

長編監督デビュー作『おかえり』がベルリン国際映画祭最優秀新人監督賞(ヴォルフガング・シュタウテ賞)、モントリオール世界映画祭新人監督グランプリなど国内外で11賞を受賞。続く『忘れられぬ人々』はナント大陸映画祭で男優賞、女優賞をW受賞。第3作『犬と歩けば』は上海国際映画祭ニュータレント部門グランプリを受賞。北野武監督に関する2本のドキュメンタリー『映画監督 北野武』『ジャム・セッション』がある。共著に『黒沢清の恐怖の映映画史』(青土社刊)。

瀬駅北口行き)または「所沢駅東口行き」、立教前下車
志木駅南口「松屋」前専用バス停よりスクールバス(運行時間
12:30~19:00、日曜運休 運賃無料)

■JR 武蔵野線 新座駅下車 徒歩約25分

路線バス(西武バス) 約10分 新座駅南口1番バス乗り場より「志木駅南口行き(北野入口経由)」、立教前下車
新座駅南口3番バス乗り場よりスクールバス 約10分(運行時間
7:30~20:00、日曜運休 運賃無料)

本企画は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究プロジェクト

「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」(平成23年~27年)の助成を受けて行います。

平成23年～平成27年 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

映像生態学プロジェクト 公開研究成果報告会

主催：立教大学現代心理学部附属心理芸術人文学研究所 共催：現代心理学部

日時：2015年6月6日(土) 13:30-17:00
 場所：立教大学 新座キャンパス6号館3階 N636教室(ロフト2)
 対象：学生、教職員及び一般 (無料)

プログラム

【第一部】13:30-14:55

挨拶
 芳賀 繁
 (心理芸術人文学研究所所長)

各チーム研究成果発表

1. 研究チーム1 芳賀 繁
2. 研究チーム2 大石 幸二
3. 研究チーム3 中村 秀之
4. 研究チーム4 松田 正隆

質疑応答／議論

【第二部】15:05-17:00

研究チーム3A

筒井武文監督作品上映会

『自由なファンシィ』

(2015年作品、上映時間 115分)

開催にあたって

人間およびそれを取り巻く映像環境に対し、密接に関わる研究および実践・実作分野—実験心理学、臨床心理学、産業組織心理学、精神医学、人間工学、映画学、映像情報メディア学、身体哲学、映像・映画制作、舞台芸術表現において、本学現代心理学部が特化している専門領域から4つのチームを編成し、各チームの専門性を活かした効率的かつ多角的な検討を行うプロジェクト「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」の推進に取り組んできました。

この研究プロジェクトにおける最終年度の総括として、研究チーム1～4のすべてが参加し、これまでの研究と実践、制作作品をまとめ、発表する4チーム合同の「映像生態学」の研究成果報告会を開催します。

研究代表者 芳賀 繁

* なお、この公開研究成果報告会は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究プロジェクト「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」(平成23年度～27年度)の一環として行うものである。

映画情報は裏面を参照してください。

お問い合わせ先：立教大学現代心理学部事務室 ☎ 048-471-7149

自由なファンシイ

筒井武文監督作品



ストーリー

田上千尋（岩瀬亮）は横浜にある美術大学の職員。最近、同居している大沢ゆかり（松平英子）が、早朝から出かけ、帰りも遅い。何をしているのか、気になって後をつけた千尋だが、彼女の姿を見失う。ゆかりは日本舞踊や演劇の稽古をしている。また早朝の秘密の仕事もしているようだ。千尋は実家の長崎から、母と姉が上京してくるので、ゆかりを結婚相手として紹介しようと、プロポーズをする。しかし、ゆかりの返事は曖昧なままだ…。

上映時間 115分 カラー HD 1:1.85 5.1

キャスト

岩瀬亮、松平英子、浜崎茜、新井晴み（友情出演）、金橋良樹、奥瀬繁、藤沢大悟、渡邊りょう、田中里奈、花柳琢兵衛、佐々木一平、羽田野直子、島崎奈央、張丹妮、李嫚倫、馬雅欣、久保寺晃一、菊地結丹佳、篠崎誠、万田邦敏、佐藤歩、諏訪敦彦、鈴野美子、鈴野麻衣、中村研一、趙心智
スタッフ

監督・脚本 筒井武文、脚本 久保寺晃一、松平英子、プロデューサー 榊井省志、土本貴生、山川雅彦、撮影 谷口和寛、撮影監修 柳島克己、照明 森紀博、浦田寛幸、録音・整音 鈴木昭彦、録音 光地拓郎、音楽 中野弘基、音楽監修 長瀧寛幸、美術 柴田正太郎、玉林亜理、美術監修 磯見俊裕、編集 大川景子、助監督 松井一生、金田健、製作担当 吉野圭一、

タイトルデザイン 赤松陽構造、アシスタントプロデューサー 羽田野直子、監督助手 児玉龍太郎、川田真理、撮影・照明助手 井前隆一朗、深谷祐次、森田亮、殿村亮、じょんうんひ、撮影応援 飯岡幸子、録音助手 高島知哉、小針沙紀子、坂元就、清水裕紀子、高橋玄、録音応援 南徳昭、持道具 趙心智、美術応援 弓場絢、中銀河、スクリプター 李嫚倫、馬雅欣、坂本悠花里、小林望、張丹妮、スタイリスト 山崎忍、スタイリスト助手 牧野祐子、着付 本吉量子、ヘアメイク 菅原美和子、ヘアメイク応援 TOM、スチール・VFX 堀田弘明、メイキング 五十嵐耕平、太田達成、製作進行 高谷昂佑、製作応援 桑山和之、後閑広、江本優作、崔得龍、原田響、勝山侃洋、木戸大地、竹中佐織、製作デスク 日永尚見、村上美和、製作経理 村上光弘、佐藤尚子、ポストプロ担当 田中直毅、タイトル制作 川口和子、デジタルカラーグレーディング 山下哲司
制作プロダクション アルタミラピクチャーズ 制作協力 東京藝術大学大学院映像研究科

© 2015 筒井武文

文部科学省

私立大学戦略的
研究基盤形成支援事業

研究プロジェクト

「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の 基盤形成」

(平成 23 年度～27 年度)

2014 年度(平成 26 年度) 研究成果報告書

立教大学現代心理学部附属 心理芸術人文学研究所

映像生態学プロジェクト 2014 年度（平成 26 年度） 研究成果報告書

目次

チーム 1：新しい映像環境がもたらす心理的影響の評価	
研究進捗状況報告書	1
1) 動画像の撮影対象と提示方法が解像度の違いと共に感性的評価へ及ぼす影響に関する検討	池田華子・日高聡太・石山智弘……2
2) 3D 映像に対する注意の測定・P300 から見る注意への影響	芳賀 繁 ……23
3) 4K 超高精細映像の制作手法の開発	佐藤一彦・石山智宏・椿学 ……25
チーム 2：新しい映像環境がもたらす映像体験の臨床的・教育的評価	
研究進捗状況報告書	31
チーム 3：新しい映像環境における映画芸術の変容に関する研究	
研究進捗状況報告書	32
付録)	
論文「映画の全体と無限——ドゥルーズ『シネマ』とリュミエール映画」	中村秀之
討議「ヒッチコック的形式の帰趨」	
	筒井武文・万田邦敏・篠崎誠・木村建哉・中村秀之
チーム 4：新しい映像環境における身体とイメージの変容に関する研究	
研究進捗状況報告書	33
研究チーム 4：2014 年度研究活動・研究成果報告	中村みなみ……34
・研究メンバーの関連業績一覧	48
・2014 年度研究メンバーリスト	55

12時45分……開場
13時00分……参考上映

15時00分～

【発表1】

木村建哉 (成城大学)

【発表2】

中村秀之

16時30分～

【対談】

筒井武文 (東京藝術大学)

万田邦敏

17時30分～

●【ネルディスカッション】

木村建哉

筒井武文

万田邦敏

篠崎誠

中村秀之

18時30分……終了予定



エリック・ロメール & クロード・シャブロール
『ヒッチコック』

木村建哉・小川原あや訳、インスクリプト、2015年1月10日刊行

【主催】立教大学心理芸術人文学研究所 【共催】立教大学現代心理学部

【企画協力】éditions azert

※本講演会は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成23年～27年、事業名「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」）の助成を受けて行われるものです。

【問合先】立教大学心理芸術人文学研究所 | 電話 048-471-7251

2015年1月10日(土)

立教大学

新座キャンパス

6号館 3階 ロフト2

ヒッチコック、新たな波

Hitchcock, une vague nouvelle

ロメール & シャブロール『ヒッチコック』をうけて

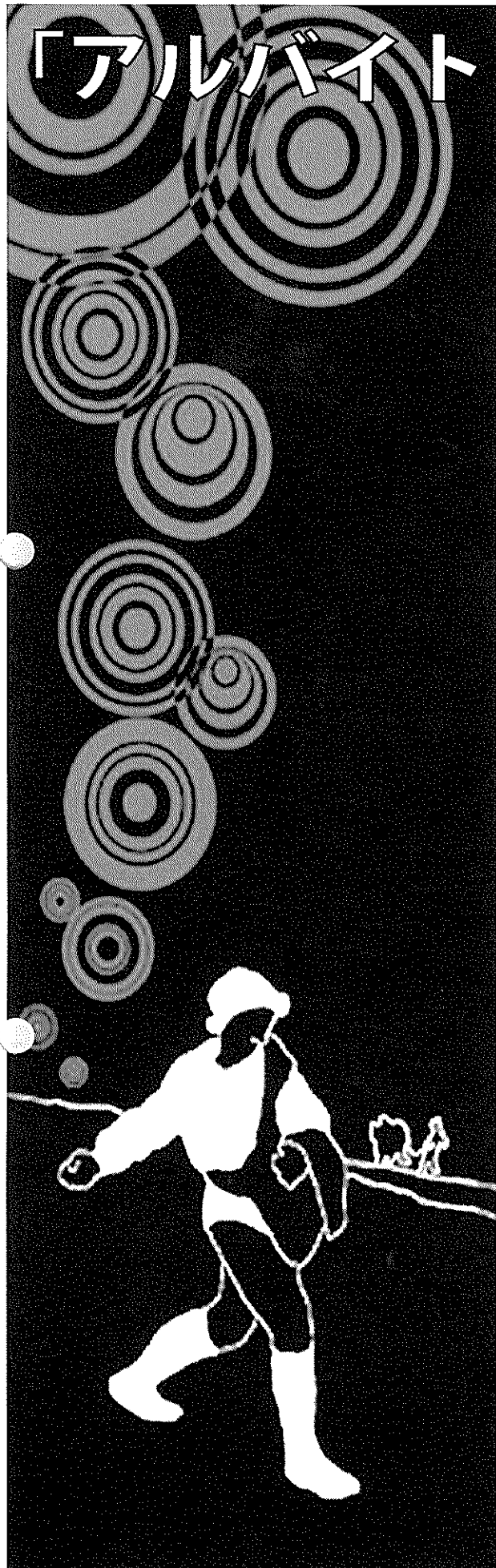
ヒッチコック映画の
空間と精神

「ヒッチコックは、全映画史の中で最も偉大な、形式の発明者の一人である。おそらくムルナウとエイゼンシュテインだけが、この点に関して彼との比較に耐える。(…)

ここでは、形式は内容を飾るのではない。形式が内容を創造するのだ。

ヒッチコックのすべてがこの定式に集約される。

我々が証明したかったのはまさにこのことである。」(ロメール & シャブロール『ヒッチコック』、「結論」より)



「アルバイト・マッピング ～労働を考える～」

に向けた中間発表

2015年1月10日(土)
立教大学新座キャンパス
6号館2階 ロフト1教室

第1部 15:00～ ワークショップ上演
[演出] 高山 明

第2部 ワークショップ終了後～ シンポジウム

第1部の上演を踏まえて「身体とイメージ」を主題
とした演劇作品の可能性を討議する。

宇野邦一 (映像身体学科元教授)

高山 明 (映像身体学科特任准教授)

チョンヨンドゥ (映像身体学科特任准教授)

松田正隆 (映像身体学科教授)

入場無料 / 申込不要

問合先 立教大学心理芸術人文学研究所

電話 048-471-7251

このシンポジウムは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成23年～27年）の助成を受けて行われるものである。